

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170400606
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム幸の里
事業所名	グループホーム幸の里
訪問調査日	平成20年3月14日
評価確定日	平成20年5月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170400606
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム幸の里
事業所名	グループホーム 幸の里
所在地 (電話番号)	羽島市下中町城屋敷579-1 (電話) 058-398-7333

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年5月10日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	羽島クリニック、松波病院、佐藤病院、藤田保健衛生大付属病院、たけはな歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から4年、運営理念の「大家族」が、そのまま日々の生活やケアにつながっている。古民家の庭先に釜戸が設置され、石臼と杵も用意されて朝からもち米が嘖かされている。利用者の希望で、調査日当日は餅つきが行われていた。野辺で採ってきたよもぎが餅に混ぜられ、見事な草もちができていく。昔、どこかで見たような懐かしい光景である。出来上がった草もちは、すぐに近所に配られた。「地域密着」をあえて声高に唱えることもなく、自然流の地域との連携ができていく。介護の現場では、医学的な根拠を基盤とした理詰めの介護が行われている。利用者の状態に合わせて、最も適切な医療を受けられるよう、数多くの医療機関と連携している。認知症ケアの最先端の知識や技術を求めて、管理者始め職員は外部研修への参加が多い。必要とあらば、他県に足を延ばすこともいとわない。全てが、利用者のため、「大家族」のための布石である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での要改善指摘項目は、どれも普段のケアの中で自然流に改善が進められている。介護支援計画書はフォーマットそのものが改定されており、ホームに合ったものが模索されていた。職員の育成(教育)面では、課題となっていた管理者の代理役(ナンバー2)も目途が立ってきたようである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を行い、課題や問題点の共有化を図っている。また、経験の浅い職員も、認知症ケアの性質を理解し認識を深めることができた。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>運営推進会議には、市の職員や市議員も出席し、ホームの状況や評価の取り組み等を報告し、議事録もとってある。直近の会議は、昼食会を兼ねて利用者全員参加の形をとった。会議メンバーが利用者の生の生活を直に体験することにより、認知症の正しい理解への啓蒙ともなった。今後も、様々な趣向を凝らして会議を開催する予定である。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>医療を視野に入れたハイレベルな介護により、家族の信頼度は高い。半面、それが管理者主導の「おまかせ」介護の様相を呈してきており、意見や要望を言い出せない環境を作っている。管理者は、その周囲(職員、家族)の状況を的確に認識しており、後継者の育成とともに、これからの課題としてとらえている。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>管理者が地域の出身であることや、この地域に古くからの地域共存・互助の関係が残っていることもあり、「地域密着サービス」として位置付けられる前から、地域への浸透度は非常に高いものがあった。介護分野での他事業進出も視野に入れており、実現すれば地域の総合的な介護拠点への地盤固めとなる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大家族」の理念に「地域」の文字はないが、利用者、職員一人ひとりが、地域に根ざした大家族の中の一人であることを理念として、全てのことを家族のこととして考え対応している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	個々が家族の一人であることを基本に、自分の家族にどの様に対応、対処していくかという所に視点を統一して、日々支援している。管理者の思いは、職員に伝わっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地元出身であるため、隣・近所は古くからのつきあいで、自然な形で地域にとけ込み、差し入れを頂いたりおすそわけを配ったりしている。調査日当日は餅つきが行われ、できたての草もちが近所に配られていた。		「地域密着サービス」として位置付けられる前から、地域への浸透度は非常に高い。介護分野での他事業進出も視野に入れており、実現すれば地域の総合的な介護拠点への地盤固めとなる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に自己評価を行い、その過程で改善点をみだし、改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市の職員や市議員も出席し、ホームの状況や評価の取り組み等を報告し、議事録もとってある。会議メンバーがイベントに参加することにより、認知症の正しい理解への啓蒙ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との交流は出来ている。施設や在宅支援事業者、医療施設等から受け入れを否されている困難事例を幸の里ならと紹介され、受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時、日々の生活状況や健康状態など報告し、情報交換をしている。職員の異動についても、適宜報告している。		瓦版(ホーム便り)を発行の構想がある。家族アンケートの結果からは、情報伝達に何ら問題はないが、家族をも含めた「大家族」実現のためにも、瓦版の発刊が待たれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	医療を視野に入れたハイレベルな介護により、家族の信頼度は高く、それが管理者主導の「おまかせ」介護の様相を呈してきている。管理者は、周囲(職員、家族)が意見や苦情を言い出せない状況を苦慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が24時間、利用者と共に生活している。毎日、在職期間の長い職員2名が勤務するようにシフトが組まれており、離職によるダメージは最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員と共に研修会等に積極的に参加している。認知症に関する最先端の情報取得には貪欲であり、多忙な日程の中、他県にまで足を延ばして勉強してくることもしばしばである。		管理者は、四六時中気の休まる時がなく、心身ともにハードな業務をこなしている。管理者がホームの外の仕事にも時間が割けるよう、いつでも管理者に代わられる職員の育成を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年は、管理者の個人的な人脈から、高名な認知症専門医を招へいし、県グループホーム協議会の講演会を開催した。協議会役員との強い連携も持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>近年、利用者・家族帯同でのホーム見学やお試し利用が少なくなり、急性期対応のケースが増えてきている。しかし、民家改造のホームであることが功を奏してか、入居開始時に不穏となる利用者は少ない。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>大家族の一人としての生活で、強要されることもなく、また抑制されることもない、共に生活している状況である。要介護度の進行はあるが、職員は利用者との壁を感じさせないケアを行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>よもぎが芽吹く季節になると、利用者から「よもぎ餅」を食べたいとの希望が出る。外部評価の当日は、出勤職員の数も多いことから餅つきが行われた。</p>		<p>この日を待ちに待っていたのであろう、大きな餅を3個、ぺろりと食べてお代わりを要求する利用者たちに驚かされた。来年のこの季節、どの利用者も元気で餅が食べられることを祈りたい。</p>
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族と一緒に方向性を話し合い、その時その状況に添った介護計画を策定している。介護計画の策定にあたっては、医学(医療)的な要素も加味されており、家族の信頼も厚い。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>その場面、その時々々の現場ケアを最優先し、必要があれば即座に介護計画の見直しが実施されている。見直しとしての記録(評価)はないが、1ヶ月に1回アセスメントの取り直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多くの医療機関と連携を持ち、利用者の状況に合わせて、最も適切な医療が受けられるように配慮している。介護分野の他事業への進出を計画しており、多面的な認知症ケアを目指している。		グループホームだけでなく、他事業への進出は地域にとっても吉報であろう。この地域の認知症ケアの拠点として様々な機能を備えれば、地域への大きな貢献となる。早期の実現を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携には強力な体制が整えられている。24時間医師との連絡可能な体制や、医師・看護師の訪問も受けられる。受診・通院は家族の希望によりホームで支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者を始め、職員にも病院勤務経験者がいることから、終末期のケアには自信を持っている。看取りは、本人・家族の希望で医療機関へ移行することもある。本人や家族の希望が、その時々心の状態で変化することを理解しており、柔軟な対応が取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	在宅事業者・医療施設から拒否された困難事例(職員を独占したい、関心を引きたいという欲望から、リビングに仰向けにひっくり返り大声で叫んでいる利用者)を受け入れた。その利用者のプライバシー確保の面では、管理者は苦勞を強いられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「大家族」としての基本的な1日の流れがあり、それに沿った支援が行われている。朝の散歩は、出入りに鍵をかけて、職員、利用者全員で出かける。飼い犬や飼い猫もお供についでくる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、利用者と共に考え材料の準備等一緒にしている。お餅を食べたいとの希望を取り入れ、粘りけの少ないきび餅と季節のよもぎ餅を作り、利用者に提供し喜ばれている。餅は食卓にのってから、調理バサミで刻まれていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助を必要とする利用者が多いが、気のあった人同士の入浴や一人でのんびりした入浴、夫婦での入浴などもあり、利用者は入浴を楽しんでいる。温泉旅行では、利用者がくつろげるよう、お風呂を貸し切って利用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に大好評の一泊旅行では、他の宿泊客への気配りも忘れない。貸し風呂のあるホテルを探して、車いす利用者も含め全員で出かける。利用者の希望を聞いて、伊勢や京都へと、結構長旅である。		要介護度の進行により、利用者本人の行動意欲は大きく落ちていられるが、わけ隔てなく全員を一泊旅行に参加させているご苦労に敬意を表す。受け入れてもらえる宿泊施設が増えてくることを望みたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や畑仕事など、その日・その時に自由に外出している。周りはのどかな田園が広がり、利用者は外出の都度、四季の移ろいを肌で感じるができる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	飼犬が三匹おり、逃げ出さないように門に鍵はつけてあるが、利用者は鍵を開けて自由に入出入りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練をしている。避難訓練を地域に予告なしに行い、地域の住人があわてて駆けつけたという苦い経験もある。古くからの地域共存・互助関係ができていいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量が記録されており、特に水分は食事以外にもとるように支援している。定期的に体重測定と血液検査を実施し、健康状態、栄養状態をチェックしている。医療機関から、栄養状態の異常を指摘されたことはない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家に合った、見馴れた・使い馴れた家具類が置いてある。各居室の入り口は、スノコ調のドアに個々のお気に入りののれんが掛けられている。人の気配が感じられ、利用者は安心感を感じている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具を持ち込んでいる利用者もいるが、持ち込み量の少ない利用者には、居室にマッチした籐の家具等を事業者が準備して使ってもらっている。		